琉球大学学術リポジトリ

台湾における野菜，果物の露天市

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 外間, 数男, Hokama, Kazuo メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015530

台湾における野菜，果物の露天市

外間数男
（沖縄県病害虫防除所）

Kazuo Hokama : Open-air markets of the vegetable and frut in the Taiwan.

はじめに

台湾の都市や町の市街地には幾つかの常設の「市場」があり，庶民のスーパーマーケットと言われるほど生活に密着し，日常生活から切り離すことのできないものである．この「市場」は我が国の「卸売市場」や「セリ市場」などとは異なり，那覇市の公設市場やその周囲に広がる露天商を含めたマチグアーの形態に類似する．取り扱う商品は生鮮食料品から日用雑貨まであらゆる生活必需品を販売し，台湾の庶民生活を垣間見ることのできる場でもある．

今回，公営市場及び周囲に広がる露店の業種や配置などについて調査した．なお，ここで言う露店とは，道路や広場などで移動可能な簡便店であり，常設店舗を持たずに現金取引を行う非常設店舗商業のことを指し，通信販売や訪問販売などの無店舗販売とは異なる[9]．

露店は開設資金や運営費が安価であり，移動簡便で，利益を上げるめに効率的な場所に移動して行うことができる．また，農家の余剰農産物を直接販売することで容易に現金収入を得うることができ，農作業など重労働のできない高齢者でも家族労働を分担できるなど地方都市では，今なおみることのできる商形態である[7,11~13]．

我が国では古くから社寺などで市場が開かれ商取引が行われていた．「魏志倭人伝」にも「市場」が記載されるほどその起源は古く，奈良時代には全国に市場が建設され，室町時代には市が定期化し，庶民生活と切り離すことのできない存在になっていた．定期市の主体は露天商であるが，市場の常設化と店舗商業の発達により，露店を中心とした定期市は明治以降に衰退し，現在では関東や東北地方の一部に残っているにすぎない[7,8,14~16]．市場は地域を写す鏡ともいわれる．市場をみることで，その地域の歴史や暮らし，文化・社会を理解することができる[1]．そこで，今なお露店を中心に市場が形づくられ，台湾庶民の台所である露天市を調査したので，その．

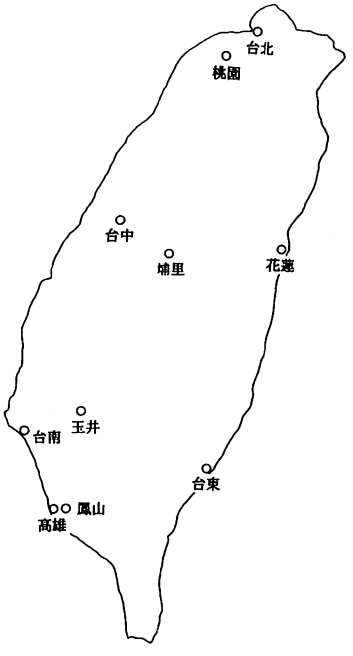

図1.　台湾の主要都市と露天市の調査地．

概要を紹介する。調査対象地域として，台湾北部の桃園市，中部の台中市，埔里鎮，南部の玉井郷，鳳山市，東部の花蓮市，台東市の 7 地域を選定した（図1）．調査は1999年9月11日から19日にかけて行った．

台湾の市場

台湾の市場は，都市に公的に整備された規模の大きい卸売市場や小売市場があり，地方には伝統的な行商や露天商などが集まって形成された露天市がみられる．卸売市場は 1955 年以降に開設されたのが多く，台北市にある中央卸売市場でも 1974 年開設と比較的新しい．台湾における生鮮食料品や家畜市などの市場数は 1980 年に 169 ヶ所あり，その中の 71 ヶ所（42%）は果菜市場で，魚市場は 79 ヶ所，家畜市が 19 ヶ所となっている．果菜市場の 1 日の取扱量は 1,000 t 前後と多く，台北市の中央卸売市場では 1,400 t 余りが取引されている．取引は卸売業者や流通業者との相対取引が中心で，セリは少ない．価格は前日の相場や近郊市場の価格を基準にすると言われる．果菜市場は農会単独や官との共同運営が大部分を占め，出店者は売上高の 3%を市場使用料として支払っている[10]．この卸売市場に対し，都市や消費地域では小売りの市場が数カ所設置され，その周囲には常設店舗や露店が並び，台湾の庶民生活にとって欠かすことのできない場となっている．桃園市内にも，図2に示すように桃園駅の北 1km のところに永和市場，その北西に果菜市場，北東に朝陽市場，南東に東門市場，南西に南門市場がほぼ等間隔に配置されている．また台中市には 10 カ所，鳳山市は 6 カ所の市場が町を取り囲む形で設置され，花蓮市及び台東市にも 3 カ所の公営市場がみられる．しかしこれ以外にも，商店街や住宅地周囲の路上や広場などでも露店を多数みることができる．

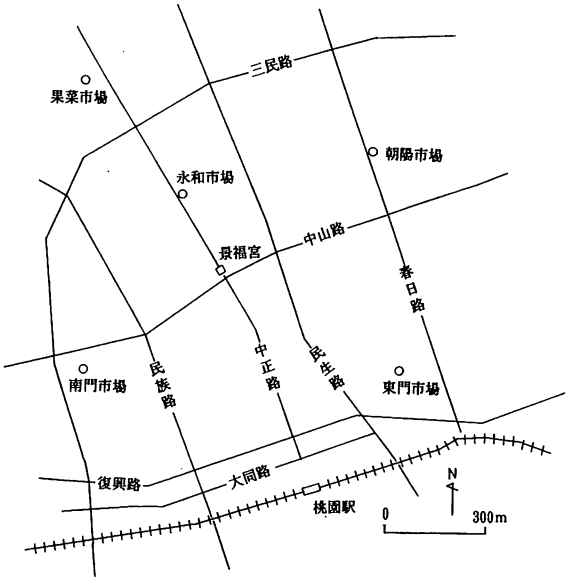

図 2.　桃園市都心部における市場の分布図.

このような市場を中心とした露店は台湾だけでなく世界各地にあり，香港では全域が市場であふれ，各街道や市場では買い手より売り手が多いと錯覚するらしい．また東南アジアの町のいたるところに露店があり，カンボジアでは戦災後の復興が露店の物々交換から起こったと言われ，タイでは村の市場が地方経済の活性化につながっている．シンガポールでは道路に露店があふれ，都市美観や衛生上の問題が持ち上がり，最近では高層アパートや屋内に市場を設置するようになった．韓国では定期市を中心に地方の都市化が進行し，中国でも 1978 年以降，「自由市場」が農産物の供給の場として積極的に見直され，消費者にとって重要な場となっている．インドでは伝統的な定期市が各地にあり，開催日や空間分布が均等に配分されている[1,2,3,5,6,18]．

このような市場は，常設店と露店で構成されているが，その主流になるのは露店である．露店は，発展途上国の庶民生活にとって欠かすことのできないものであり，町の復興や発展も露店を中心とした経済活動が大きな支えとなっている．台湾では露店の法的規制が強化され，

台北や高雄などの大都市ではみることは少なくなってきた．しかし地方都市では，今なお露店が庶民の日常生活を支え，台所とも言われるほど賑わいを示している．

露天市場の構造

桃園市は人口約25.4万人（1994年）で，自動車や機械工業などが急速に伸び，消費拡大の進行している地域である．桃園の「大廟」景福宮に近く，商店街に隣接して永和市場が設置されている．同市場は6階建てアパートの地下1階にあり，精肉や魚介類，野菜店が多く，地1階は日用雑貨などのフロアになっていた．午後7時に市場内の店舗をみたが，全て閉店中で，外観からは市場の存在すらわからないほどであった．また市場周囲には4店舗（野菜の常設店）が開店しているにすぎなかった．翌日の午前8時には，地下市場内及び周囲の路上は活況を呈していた．市場内には野菜の常設店が52店あったが，果物店はみられなかった．市場周囲にも野菜・果物の常設店が16店，露店が75店あり，露店の殆どが野菜商（93%）であった（表1）．台中市は農業地域を後背地とし，中部台湾最大の商工業地域で，人口は約90.1万人（1997）である．台中駅近くにある建国市場は，午後3時には市場内に人気がなかった．市場内は暗く，野菜の常設店舗が2ヶ所開店中であったが，仕入れ品の調整に忙しく，販売目的の開店ではなかった．市場周囲には，常設店舗が6店あったが，5店舗は果物で，野菜は1店舗のみが営業していた．露店は9名出店していたが，8名は野菜商であった．しかし朝の市場内及び周囲路上は喧騒で，午前8時には市場内に野菜の常設店舗が50店あり，市場内通路でも6名の野菜の露店商がいたが，果物はみられなかった．

市場周囲の八徳街や武徳街，南京路，建国路にも常設店舗が9店あり，野菜が3，果樹が6店舗であった．野菜は南京路に3店がまとまり，果物は各街路に散在していた．各街路上には露店が賑わい，野菜は125名，果物は88名が出店し，市場の周囲は露店だらけであった．

表1．桃園市永和市場及び周囲の野菜・果物の常設店舗及び露店数．

調査月日（時間）	調査場所	野菜		果物	
		常設店舗	露店	常設店舗	露店
9月18日（18:50）	市場内	0	0	0	0
	中通り	0	0	0	0
	和平路	2	0	0	0
	新生路	0	1	0	0
	中正路	2	0	0	0
9月19日（7:50）	市場内	52	0	0	0
	中通り	3	3	0	2
	和平路	2	55	3	3
	新生路	4	2	2	0
	中正路	2	10	0	0

特に八徳街には121名が出店し，約200mの路の両サイドは露店であふれていた（表2）．

台中市の東部広陵地域にある埔里鎮は人口約8.6万人（1994）である．市街地の一角には公営市場があり，その周囲路上には露店が多く，また市場北東側600mの中山路と忠孝路に交差する北環路の道路沿いにも露店がみられた．公営市場内には60カ所の売場があり，半数近くの45%が精肉店で，野菜売場は約32%，魚介類が13%となっていた（表3）．公営市場内は午後6時頃でも常設の野菜店舗や精肉店の一部が営業していた．しかし最もにぎやかになるのは午前8時から9時頃で，市場内の全ての店舗が開店し，売場はごった返しであった．また市場内の中通りには野菜売りが42名出店していたが，果物は2名のみであった（表4）．

表2．台中市建国市場及び周囲の野菜・果物の常設店舗及び露店数．

調査月日（時間）	調査場所	野菜		果物	
		常設店舗	露店	常設店舗	露店
9月16日（15:30）	市場	2	0	0	0
	八徳街	0	8	1	1
	武徳街	0	0	1	0
	南京路	1	0	1	0
	建国路	0	0	2	0
9月18日（8:00）	市場	50	6	0	0
	八徳街	0	73	2	48
	武徳街	0	19	1	5
	南京路	3	22	1	26
	建国路	0	11	2	9

表3．公営市場内における生鮮食料品の種類別売場数．

生鮮食品種類	永和市場[a]		建国市場[b]		埔里市場[c]	
	売場数	割合	売場数	割合	売場数	割合
精肉	79	47.9	68	39.3	27	45.0
魚介類	31	18.8	31	17.9	8	13.3
野菜	52	31.5	50	28.9	19	31.7
その他[d]	3	1.8	24	13.9	6	10.0
合計	165	100.0	173	100.0	60	100.0

a）桃園市，b）台中市，c）埔里鎮，d）果物、乾物、日用雑貨等．

市場周囲の路上では10カ所の常設店舗と27名の露店があったが，常設店舗は果物，露店は野菜が殆どを占めていた（表4）．公営市場の北東側にある北環路沿いには，午後5時に野菜の常設店舗が3カ所，果物は7店舗が営業し，露店は野菜が5名，果物は3名出店していた．翌日の午前8時には，野菜の常設店舗が3カ所，露店は25名が出店し，果物は常設店が9店舗，露店は7名が出店していた（図3）．

表4．埔里鎮公営市場及び周囲の野菜・果物の常設店舗及び露店数．

調査月日（時間）	調査場所	野菜		果物	
		常設店舗	露店	常設店舗	露店
9月16日（17:50）	市場内	6	0	0	0
	中通り	0	5	0	0
	周囲	2	0	8	0
9月17日（8:40）	市場内	19	0	0	0
	中通り	0	42	0	2
	周囲	2	24	8	3

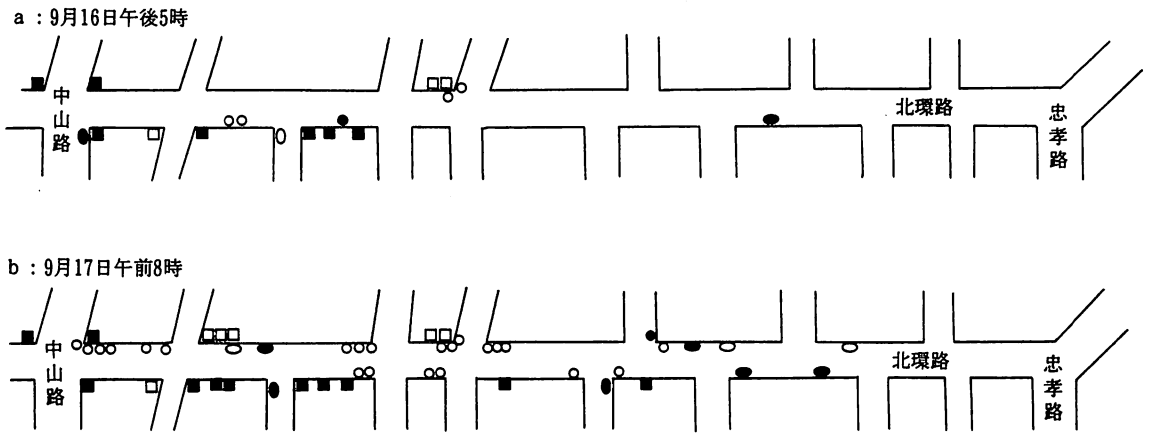

図3.　埔里鎮北環路における常設店及び露店の配置図．

○：野菜露店　●：果物露店
□：野菜常設店　■：果物常設店
⬭：野菜軽トラック　⬬：果物軽トラック

玉井郷は台南の北東30kmの広陵地帯に位置し，「マンゴーの里」と呼ばれるほど有数の産地で，人口は約1.8万人（1994）である．町の入口には玉井市場及び青果市場が併設され，午前10時30分には，玉井市場内に野菜の常設店舗は1店のみで，大部分が精肉売場であった．市場内の売場の幾つかは売り人がなく，閑散としていた．これに対し，巨大な鉄枠にテント掛けをした青果市場では，マンゴーがカゴや軽トラックに山積され，販売待ちであった．市場内には果物の出店者が65名いたが，仲買人より売り人の数が多かった．果物の殆どはマンゴーで，その他の果物として，リュウガンやパパヤ，シャカトウなどがわずかにみられた．野菜の出店者はいないが，市場周囲の広場では4名の露店商がテント掛けで販売していた．

鳳山市は台湾第2の都市高雄市に隣接し，農工業の進んだ地域で，人口は約29.6万人（1994）である．市内には6カ所の市場があるが，今回公有第2市場と中山路沿いの市場を調査した．光遠路沿いにある公有第2市場は売場の一部のみが使用され，殆ど使用されず，調査した午前8時には人気がまばらで閑散としていた．また市場周囲にも野菜の常設店舗が11店舗，果物が2店舗あったが，露店商はみられなかった．中山路と維新路の交差点にある市場は地図上に記載されていなかったが，市場内には精肉店が90店舗以上もあり，市場の中通りの100m程度の通路には野菜の露店商が93名出店し，幅4m程度の路上には出店者が路の両サイド及び中央に一列に陣取り，足の踏み場もないほどであった．この通りの入口の角には野菜の常設店が2店舗あった（表5）．

花蓮市の人口は約10.7万人（1994）であり，花蓮県の34%が居住している．市街地には幾つかの市場があるが，今回総合市場と重慶市場を調査した．午後2時頃に総合市場をみたが，市場内は全て閉店中であった．市場周囲の復興街と公正街には常設の店舗が18店，露店が8名営業していたが，殆ど果物店であった．果物の常設店は定位置にテント張りした簡易なもので，朝から夜遅くまで営業していた．

表5．鳳山市中山路沿における野菜・果物の常設店舗及び露店数．

（9月14日、8:30）

調査場所	野菜		果物	
	常設店舗	露店	常設店舗	露店
市場内	2	0	0	0
中通り	2	93	0	11
中山路	0	0	0	13

この常設店舗は朝から昼の間は主婦が店番し，夕方から夜間にかけては男であった（表6）．また重慶市場も午後3時30分頃には，殆どが閉店中であり，周囲路上では果物店が数店営業していたが，野菜店は少なかった．午前8時30分には市場内の全てが開店し，野菜の常設は21店舗と多く，果物は4店舗にすぎなかった．周囲の路上には露店が並び，野菜の出店者は56名と多く，果物は20名であった．

表6．花蓮市総合市場内及び周囲の野菜・果物の常設店舗及び露店数．

調査月日（時間）	調査場所	野菜		果物	
		常設店舗	露店	常設店舗	露店
9月11日（14:30）	総合市場	0	0	0	0
	復興街	2	4	3	2
	公正街	0	0	13	2
9月12日（7:30）	総合市場	7	6	0	0
	復興街	2	11	3	4
	公正街	0	3	13	2

台東市の人口は約10.8万人（1994）で，県全体の30%以上が居住している．町の市街地にある市場と周囲の露店及び正気路と復興路の常設及び露店を調査した．午後3時30分に市場内をみることはできなかったが，市場前の復興路には，常設店が野菜で1店舗，果物が2店舗あり，露店は野菜が25名，果物は3名で，野菜が多かった．正気路は果物街と言われるほど果物店が多く，常設は13店舗，露店が1名であった．また午前8時30分には，市場内に野菜の常設店舗が17店，通路に16名の野菜商が出店していた．果物は常設，露店とも2店舗で少なかった．また正気路と復興路の露店は，当日が雨であったため出店者が数名と少なかった（表7）．

表7．台東市正気路及び復興路の野菜・果物の常設店舗及び露店数．

調査月日（時間）	調査場所	野菜		果物	
		常設店舗	露店	常設店舗	露店
9月12日（15:30）	正気路	4	1	13	1
	復興路	1	25	2	3
9月13日（8:30）	市場	17	16	2	2
	正気路	4	3	16	6
	復興路	4	3	2	2

図3には埔里鎮北環路における常設店舗と露店の配置を示したが，午後5時の出店者が少なく，一概には言えないが，通行の要所に陣取り，同業者の店前でも 出店していることがわかる．また午前8時でも同じ傾向がみられ，道路の交差点や同業者が集まっているところに集中していた．この露店の配置は埔里鎮だけでなく，調査

した全ての地域で確認され，道路の角や市場の出入り口，通路は露店がひしめき，常設の同業者の店舗前でも公然と出店しても，常設店主は文句一つ言わない．

表8．台中市及び埔里鎮市場周囲露店の野菜品目別取扱店数．

種　類	野菜名	台中市	埔里鎮
葉茎菜類	ハクサイ	—[a)]	5[a)]
	キャベツ	8	5
	メキャベツ	—	5
	カリフラワー	1	2
	チンゲンサイ	2	1
	タイサイ	1	—
	カラシナ	1	—
	レタス	1	—
	ホウレンソウ	2	4
	タマネギ	5	1
	ネギ	9	4
	ニンニク（葉）	—	4
	ニラ	5	6
	ニラ（抽苔）	3	1
	ラッキョウ	1	—
	モヤシ	3	3
	ミズイモ（葉柄）	—	1
	シダ（若芽）	1	—
	ヒユナ（赤）	—	1
	マコモ	5	8
	ハヤトウリ（葉）	2	—
	サツマイモ（葉）	1	—
	菜類（種類不詳）	6	11
果菜類	トマト	3	6
	ナス	3	6
	ピーマン	2	7
	シシトウ	2	2
	トウガラシ	—	1
	キュウリ	2	6
	スイカ	—	1
	カボチャ	1	2
	トウガン	2	—
	ニガウリ	6	5
	ヘチマ	2	3
	ユウガオ	1	3
	スイートコーン	—	4
根菜類	ダイコン	7	5
	カブ	—	1
	ジャガイモ	5	3
	サツマイモ	2	3
	サトイモ	9	—
	ミズイモ	—	1
	ヤマイモ	1	—
	ショウガ	3	8
	タケノコ	—	1
	ハス	1	—
豆類	インゲン	4	2
	ササゲ	3	2
	ナタマメ	—	1

[a)]，15店中の取扱店数．

露店は市場の出入り口や路の角に陣取り，1カ所の路上に集中する傾向がみられる．

台中の建国市場周囲路上には露店が多いが，市場出入口に面する八徳街に特に露店が集中している．また桃園市の永和市場でも，市場出入口の和平路には露店の7割以上が出店し，販売に有利な場所を選んで出店していることがわかる．

露店の取扱品目は多種類あるが，1店舗当りの品数は少ない．表8には台中と埔里における野菜の取扱品目を示したが，1露店当り品数はおおよそ8種類である．軽トラック販売では1種類の場合が多く，路上販売ではスペースの確保が難しいことから，品目が制限されていると思われる．野菜の品目として49種類が確認されたが，菜類は種類不詳のものが多く，これを加えると50種類はゆうに超える．露店の取扱い品目で，野菜は殆ど台湾産であったが，果物はタイやアメリカ産が混ざり，露店によっては外国産のみの場合もあった．果物は自家生産物を販売する農家というより，卸購入・販売する市場商人が主流を占めていると思われる．露店はパラソル一つを道端に立て，その下に敷物を敷き，また運搬容器を逆さにして置き台にして商品を並べる簡易な販売形態であった．中には道路一面に敷物を広げ車の通行を遮断をしかねないほどであった．露天商の大部分は高齢の主婦であったが，軽トラックの利用は果物で多く，売り人は男女が半分程度で，若い人から中高年と幅広かった．

露天市場の機能

台湾の市街地や消費地域には「市場」があり，その周囲には露天市が広がり賑わいを示す．この構図は各地にみられ，庶民の生活と密接に関連し切り離せない存在である．台湾には，我が国のようなデパートの食

品売場やスーパーマーケットのような食糧品売場が少なく，市場が日常的生活に必須な購買機関となっている．市場の主役は露天商であり，露店が賑わう時には公営の市場でも活況を呈し，露店が引く午後には，市場内もひっそりとしてくる．このように露店は地域経済と密接につながり，地域経済の活性化に大きく役立っていると思われる．

公営市場は精肉と魚介類が中心（表3）であるのに対し，露店は野菜が多い．露店は公営市場など常設店舗の取り扱わない物の補完的役割を果たし，品物が新鮮で安価であることから消費者にも喜ばれている．また農家にとっても自家生産物を簡単に販売することができ，生産物の換金場でもあり，高齢者などでも現金収入を得ることができるなど，地方都市や周辺農家の生産意欲の向上や経済活動に役立つている．

中国では古くから露店を中心とした市場が各地にあり，商業活動の場として重要な機能を果たしていたが，社会主義化に伴い伝統的な市場は大幅に縮小された．しかし1978年以降から改革開放政策により自由市場が復活し，新設も加わって市場数は急増した．市場は農産物の供給場として位置づけされ，農家にとって現金収入を得る唯一の場になっている．中国には八百屋や魚屋などがなく，市場が生鮮食料品の販売場所であり，都市住民にとっては不可欠なものである．市場の出店者の殆どは露店商であり，臨時出店者が多い．中国の蘇州では市が1km間隔で均等に分布し，出店者の大部分が農家であり，30～40歳代の男が多い．出店者は商品別にかたまる傾向がみられる．この同業者が街路に集まって店を連らねて形づくる様子を「行」と言い，市場と周囲の露店を含めて市場を形づくったのを「街市」と言っている[3~5]．

また我が国でも，新潟県の定期市などは地域の重要な経済機能の一端を担い，野菜などは常設店舗より市場に重点が置かれている．都市部の定期市ほど青果・野菜の構成比が高くなっている．三条市では現金獲得の必要にせまられた農家による出店が市場存続の重要な背景になっていると言われる[11~13]．

市場は物流取引の場であるとともに，情報の交換・伝達の場にもなっている．インドやアフリカの農村市場では出店者相互の情報交換や遠隔地との文化交流の場であり，官公署の意思伝達も行われる．市場は経済的機能とともに非経済的機能も併せ持つ異文化交流の機能も果たしている[1,2]

このように露店を含めて形づくられた「市場」は台湾や中国などのアジア地域だけでなく，世界各地にみられる．アジア民衆の日常生活を支えているのは市場と言われ，その役割は地域経済の活性化にとっても極めて大きい[1,2,17]．

おわりに

台湾には廟がいたるところにあり，神を祀るばかりでなく集会場の役割も果たしている．この廟前の広場や路上には屋台など露店が集まり，商業活動も活発である．廟前の露店が常設化し，市場ができ町が形づくられる．町は露店を含めた市場が発祥の源になっている場合が多い．

沖縄にも，最近まで路上を利用した露天市があったが，店舗商業が活発になるにつれて衰退してきた．しかし，市場を形成するほどではないが，小規模ながら国道などの道路沿いの果物スタンドや店舗も幾つかみられ，最近では，金武町の「いししゃ自由市場」や具志頭村の「ふれあい直売市」など生産者が直接販売する動きも出てきている．また市町村などの管理する特産品売場が各地に新設され，直販の条件も整備され

つつある．

露店は開設資金が安価で，価格の自己決定と流通経費の所得化ができる点で生産者にとって有利であり，新鮮な商品を安価で購入できることから消費者にとっても価値がある．露店の主役は生産者であり，消費者である．相互の連携や必要性によって「市場」が形成される．「市場」は物流の取引場所であることから，最も人が集まり易い場所と時間を反映し，流通システムや食文化などを通して地域文化を理解する上でも貴重である．市場からその地域の歴史や暮らし，経済状態，文化的特徴を知ることが可能であり，市場をみることで，地域の文化を理解することができる．

露店は庶民の日常生活にとって重要な購買機関であれば，今後とも存続していくであろう．しかし，衛生や美観上の問題なども抱え，大都市では法的な規制を強化する傾向にあるため，位置づけやあり方などを考える時期にきていると思われる．

引用文献

1. 石毛直道・ケネスラドル 1992．アジアの市場．くもん出版．東京．
2. 石原潤 1989．市の文化地理．大島・浮田・佐々木編「人文地理学」．古今書院．東京．
3. 石原潤 1991．中国の自由市場について．名古屋大学文学部研究論集（史学）37：175-204．
4. 石原潤 1994．「中国集市大観」に見る中国の自由市場．名古屋大学文学部研究論集（史学）40：183-201．
5. 石原潤 1996．中国における自由市場の発展と現況．古屋大学文学部研究論集（史学）42：125-139．
6. 石原潤・溝口常俊 1988．インド，西ベンガル州，タムルク地域における市の分布と特性．名古屋大学文学部研究論集（史学）35：133-171．
7. 神戸正編 1970．都市農業の直売戦略．誠文堂新光社．
8. 中島義一 1964．市場集落．古今書院．東京．
9. 中村周作 1993．京都市域おけるうどん屋台営業の地域展開．人文地理 45-2：76-92．
10. 沖縄県農林水産部 1981．台湾農業視察研修報告書．91．
11. 岡村治 1992．越後定期市における農家出店者存立の地域的基盤．人文地理 44-4：20-37．
12. 岡村治 1986．明治期三条町の「市」と店舗商業．歴史地理学 134：17-30．
13. 岡村治 1989．新潟県における定期市場網の地域的差異．人文地理 41-3：22-43．
14. 大島延次郎 1955．日本都市発達史.宝文館．東京．
15. 仙道良次 1980．東北地方に立つ定期市（1）．地理 25－9：124-129．
16. 須原芙士雄 1983．「商業中心地」．木村・坂本・高橋編「現代地理学の基礎」大明堂．
17. 田畑久夫 1987．雲貴高原フィールドノートから．地理 32（1）：86-95．
18. 吉野正敏編 1993．雲南フィールドノート．古今書院．東京．